

あきる野市



# 民生・児童委員 だより

## 共に手をとりあつて安全安心な福祉のまちづくりを

あきる野市民生児童委員協議会代表会長 溝口正恵

民生・児童委員は、全国共通の民生委員信条に基づき、隣人愛を持って社会福祉の増進に努めています。また、誠意をもってあらゆる生活上の相談に応じ、自立の援助に努め、相談内容に応じて関係機関につなげております。

今、日本は他国にはないスピードで少子高齢化が進んでいます。しかも地域では、高齢者の孤立感や子供達をとりまく環境の悪化や虐待、災害時の対応等、課題は山積みしております。

これらの多くの問題解決には行政を始め町内会・自治会・社会福祉協議会など様々な団体の連携が不可欠です。

民生・児童委員も各種団体と共に、福祉のまちづくりに協力し、活動しております。日本の高齢化は年々高くなっており、差し迫った問題として、高齢者問題の解決は早急に進めなくてはなりません。

現在住み慣れている地域で、健康で安心して暮らし続けられる環境づくりのために、民生・児童委員は日々活動を惜しみません。また、21世紀は「人権の世紀」とも言われている中、民生・児童委員は時代に即した人権問題の解決に向けて研鑽と実践に努

## 地域福祉の一翼を担う民生委員・児童委員

あきる野市長 臼井 孝

「民生・児童委員だより」が発行されるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年12月に民生・児童委員の一斉改選が行われ、現在、44名の再任の方々と、26名の新任の方々に様々な活動を通して、地域福祉向上のためにご尽力をいただいております。

その活動の一つとして、東日本大震災で不幸にして親を亡くされた子どもたちのために、産業祭で行われている「東日本大震災子ども応援募金」の街頭募金活動が評価され、東京都民生児童委員協議会会長から、感謝状が贈られたと伺っております。このことは、より広域的な福祉の向上に寄与する大変素晴らしい取組であると感じているところであります。

さて、昨今の少子化や核家族により、地域のつながりが希薄化し、高齢者や子育てをしている方が、相談相手がなく、孤立し

め、ともに共存と共感で相互に支え合うまちづくりの実現に寄与するための活動に努めております。

私共が産業祭で行っております、東日本大震災で親を亡くされた子供たちのための「子ども応援募金活動」も、市民の皆様のご理解とご協力をいただいで、今年も暖かいお気持ちをお届けすることができました。たいへん感謝され、また大勢の子供たちの教育のために、お役に立っております。これからも支援の継続は必要と思われま

ます。民生・児童委員はそれぞれ担当地区の安全安心の見守りとともに、高齢者部会、障がい者部会、子育て支援部会、生活福祉部会、児童福祉部会に分かれて活動しております。

主任児童委員部会は、学童を始め子供達の安全のために民生委員と共に活動しております。民生児童委員には守秘義務があり、相談の内容は確実に守られます。市民の皆様の一歩身近な生活相談員として安心してご相談ください。

てしまつケースが増えております。このようなか、地域の身近な相談相手として、支援を必要とする住民と行政、専門機関をつなぐ皆様の活動は、ますます重要なものとなっております。

市では、将来都市像である「人と緑の新創造都市」の実現に向け、子育て環境の整備や高齢者、障がい者を地域で支え合う仕組みをつくるなど、市民の皆様が安心して暮らせる福祉の充実を図る取組を進めております。

今後、民生・児童委員の皆様には、地域の見守りや相談、支援などの地域福祉活動を通して、本市の地域福祉向上のための一翼を担っていただきたいと思います。

最後になりますが、民生・児童委員の皆様

様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。